

令和2年度第3回総合教育会議 議事録

1 開催日時

令和3年2月17日(水) 13:30～15:00

2 出席者

(1) 構成員

市長	園田 裕史
教育長	遠藤 雅己
教育委員	渡邊 敬
教育委員	佐古 順子
教育委員	中嶋 剛
教育委員	前田 愛
教育委員	船橋 修一

(2) 説明者

教育政策監	西村 一孔
教育次長	吉村 武史
こども未来部長	山中 さと子
教育総務課長	三岳 和裕
学校教育課長	橋口 智秀
社会教育課長	喜々津 武利

(3) 事務局

企画政策部長	渡邊 真一郎
企画政策課長	石山 光昭

3 協議

- (1) 令和3年度教育に関する方針について
- (2) 成人式の開催について
- (3) 大村市のGIGAスクールを活かした教育について
- (4) 給付型奨学金の見直しについて

4 その他

5 閉会

[資料]

- 1-1 令和3年成人式の開催について
- 1-2 新型コロナウイルスに関する他市成人式動向
- 1-3 新型コロナウイルスに関する他市成人式取組(特色あるもの)
- 1-4 全国成人式取組(規模が大きい都市で実施した自治体)
- 2 GIGAスクール構想の大村市における実現状況及び今後の展望
- 3-1 大村市給付型奨学金について
- 3-2 給付型奨学金等(地方公共団体が実施)

企画政策部長 渡邊 真一郎

定刻となりましたので、ただ今から令和2年度第3回総合教育会議を開催いたします。本日、司会を務めさせていただきます企画政策部の渡邊でございます。どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、今回初めて船橋委員が総合教育会議に参加されます。どうぞ宜しく願いいたします。

それでは会議に入ります前に、お手元の資料のご確認をお願いいたします。配布しております資料が、会次第、名簿、配席図と資料1-1「令和3年成人式の開催について」、資料1-2「新型コロナウイルスに関する他市成人式動向」、資料1-3「新型コロナウイルスに関する他市成人式取組（特色あるもの）」、資料1-4「全国成人式取組（規模が大きい都市で実施した自治体）」、資料2「GIGAスクール構想の大村市における実現状況及び今後の展望」、資料3-1「大村市給付型奨学金について」、資料3-2「給付型奨学金等（地方公共団体が実施）」以上の7つの資料を配布しております。資料の不足等ございませんでしょうか。それでは早速、会次第に沿って進めてまいります。開会に当たりまして、大村市長、園田裕史がご挨拶を申し上げます。

大村市長 園田 裕史

皆さんこんにちは。本日は令和2年度第3回総合教育会議に大変お忙しい中お越しいただきまして、誠にありがとうございます。また、この度、新たに船橋修一委員におかれましては、ご就任後初めての総合教育会議ということで引続き宜しく願いいたします。今後も厳しい叱咤激励をいただきながら教育行政と一緒に前へと進めて参りたいと思っておりますのでどうぞ宜しく願いいたします。

先ほど冒頭に、わが中央保育所での同級生である辻君の歌を聞いていただきまして、こうやって同級生が活躍していて、しかも気持ちを持って思いを持って大村市に寄贈していただけるというこ

とで、本当に友人ながら嬉しく思いますし、しかも僕らの同級生の担任の先生は、現放虎原こども園の岸先生、当時岩本先生で、今年度で退職ですが、そういったご縁もあって、やはり教養と恩師との関係も含めて素敵だなとも思っているところです。そういった中で大変冒頭に申し訳ございませんが、先般、皆様もご承知のとおり大村市給食会において800万円あまりの着服事案が発生をいたしまして、大変市民の皆様の信頼を失墜させるような事態、またこうやって教育委員の皆様にも日頃からご支援いただいている中で事案が発生しましたことを深く反省をしております。誠に申し訳ございませんでした。今年度から、公会計になって給食費の請求者が私の名前で請求がいつていることについても非常に重く責任を受け止めています。ただ、こうやって事案が発生してから遠藤教育長を先頭に、事態の解明とその後の対応を進めてきていまして現時点に至っております。今日は議案に挙がっておりませんし、詳細については今後教育委員会の中でご議論なされるかと思っておりますが、返済の状況であったり、刑事告訴のことであったり、状況はこの会議が終わった後の定例教育委員会で説明されると思いますのでここで時間は取らないようにいたしますが、いずれにしても理事長である辻田理事長から一部責任を取る形で給与の返納というものもありました。先ほど午前中に市議会の全員協議会がありましたので、その場で私と教育長の給与の減額の条例を3月定例議会に提出をするという形で、ここも対処させていただきたいと思っております。誠に申し訳ございませんでした。詳細については教育委員会の中で厳しくご意見を頂戴できればと思っておりますので宜しく願いいたします。

そういった中において特に昨年末から現時点においての教育行政に係るもろもろでございますが、ご承知のとおり後でも奨学金の項目にも関わってきますが、この年末年始に大村の子ども達が大々活躍をしまして、特に大村高校の文化部の子ど

も達が全国でも輝かしい成績を残し、高校生で言いますとラグビーの花園に北陽台高校、南山高校、ここの大村の子達が主力で、陸上は鎮西、これも桜が原中学校の子ども達を始め大村の子たちが主力で、女子の諫高も大村の子が主力で、サッカーの創成館もここに四人大村の子たちが主力で、一人は一年生でスタメン、春高バレーは大村工業高校が11連覇、女子は聖和でしたけれども聖和にも二人大村からおります。あとバスケットは佐世保工業でしたが、キャプテンともう一人の主力、惜敗した翌日の新聞に大きく写真を飾っていた二人がまさにダブルガードで大村の子で、大村の子ばかりで、極めつけは箱根マラソンで、桜が原中学校、鎮西学園出身の花尾君が駒澤大学の7区を力走して優勝ということで、大変年末年始嬉しいなと思いながらテレビを観ておりました。こういう形でまた子ども達のために皆さんのお力をお借りしながらよりよい教育環境の提供を進めて参りたいと思っておりますので今日ももろもろご議論、ご意見いただきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。来年度の予算に向けて概要を説明させていただきたいと思っておりますが、これまで皆さん方からいただいたご意見を予算に反映するのが私の仕事ですので、これまでもエアコンの設置であったり、エレベーターの設置であったり、色々と予算を講じて参りましたが、また来年度も色々な形で皆さんのご意見を予算に政策に表した格好に出来る限りさせていただければと思っております。是非、引続き皆様のお力をお借りしたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

併せて最後に一つだけ、今日は渡邊委員がいらっしゃいますので、大村市医師会の絶大なご協力のお陰でワクチンがもうまもなく、来週くらいから市内の医療機関も医療従事者も接種が始まります。全国的には今日から始まっていますが、その後4月の頭くらいから高齢者の方々というスケジュールで、後はワクチンが届きさえすれば、大村市としては準備万端なんです。全国的にも先んじ

て準備万端です。これが出来ているのも医師会の絶大なご協力のお陰で、大村市はお医者さんの数が非常に多いということもあります。そういったことから世の中の的に報道されている、かかりつけ医で打つ「練馬区モデル」、人が集まるような施設で打つ「豊島区モデル」と言われているもの、あとは集合した集団接種ができる「スタンダード」なもの、これが全部できる形で今、調整を整えております。これは本当に医師会のお陰でこういう準備が整いつつあります。あくまでも任意でありますけれども是非とも接種をいただきたいと思っておりますので、本当に渡邊先生ありがとうございます。皆さんも是非接種をしていただきまして、周囲の方に副反応大丈夫やろかと言われる方がいたら、ちゃんと万全の体制らしいので行ってみようでと言っていたいただければと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。今日は誠にありがとうございます。

企画政策部長 渡邊 真一郎

ありがとうございました。それでは、次第3「協議」に入りますが、ここからの進行は、大村市総合教育会議運営要領第3条の規定に従い市長が行います。それでは園田市長宜しくお願いいたします。

大村市長 園田 裕史

まず、協議事項(1)令和3年度教育に関する方針について、でございます。事務局から説明をお願いいたします。

教育総務課長 三岳 和裕

「令和3年度教育に関する方針について」ということですが、市長の方からも予算というお話がありましたけれども、予算に関しては議会上程前でなかなか詳しいところまで説明できる段階ではないのですが、この後の教育委員会定例会の中で3月の定例市議会へ提出します原案についてご審議いただくようにしています。総合教育会議の中では、大まかに話ができることだけになります。お知らせさせていただきたいと思っております。

教育総務課が担当しております、学校施設につきましては、令和2年3月に策定をいたしました大村市学校施設長寿命化計画に基づきまして、令和5年度から着手するような予定になっております。5年度着手に向けて、来年度の令和3年度から手続きを進めていく形になっております。具体的にいうと建替えに係る基本計画、基本設計に着手をして令和4年度に実施設計を行って令和5年度に改築、長寿化計画に着手するというような予定で進めております。学校の老朽化を解消するためにこの計画を策定し、今後計画どおりに進めていければと考えております。学校施設の部分に関しましては以上でございます。

教育課長 橋口 智秀

続きまして学校教育関係でございます。学校教育課は、次年度も様々な政策を実施していきますが、特に大きなものとしましては、この後詳しくご説明させていただきますが、「GIGAスクール構想」を元に、機器等の整備はほぼ終了していますので、次はこれをいかに活用して子供たちの学力の定着、個別最適な学びに繋げていくかを次年度本格的に実施していく予定でございます。それからもうひとつは、不登校対策といたしまして、現在試験的な運用で、小中学生サポートルーム「c o n n e (コンネ)」を運用しておりますが、次年度は本格的に運用をして参りたいと思います。これにつきましては現在十数名、20名近くの子ども達が来ておりますので、人員を増やす等の予算措置を行い、来年度本格的に充実をさせて参りたいと考えております。学校教育課からは以上でございます。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。この後の定例教育委員会の中でもっと詳しいお話があると思います。今日は色々忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますが、予算の原案に関してはこの後の定例教育委員会の中でのことですので、今説明をいただきましたが、私としては特に今年度試

行的に開設された「c o n n e (コンネ)」、これが市議会からも全国的にも高い評価をいただいております、本当に工夫した中で限られた人員の中で運用していただいて、今、良い成果があがっているのかなと思います。第三の居場所にといいことで、非常に機能を発揮していますし、コロナ禍の状況の中で若い女性の方や学生さんの視察者数も増えているということで全国的な報道もありますので、色々な形の中で是非この「c o n n e (コンネ)」をさらに充実をしていけるような令和3年度に出来ればと思っております。GIGAスクールについては、後ほどのテーマとして詳しくやり取りをさせていただきたいと考えておりますが、ここも市民の方や保護者の皆さんから興味を持っていただけているのかなと思います。ちょうど一昨日、大村市在住で大村市出身の大学生からメールが来ていたのですが、大村市のGIGAスクールは大丈夫かと、市長と直接意見交換がしたいということでメールが匿名ではなくて普通に来ていまして、早速電話をして時間を調整しようかと言ったら、来るということでどんな人かわかりませんが、意見交換をしたいなと思います。差支えなければ教育委員会の皆さんもお呼びしますと言っていたので、そういう機会を設けられたらなと思います。こうやって大学生が大丈夫かという形で心配をしてくれたり、こうだ、ああだと言ってくれるのは有難いことなので、こういう注目がされている時に大村市独自の実態にあったGIGAスクールを是非進めて参りたいと思います。

それともう一つは三岳課長からありましたけれども、老朽化している学校の建替えについてはいよいよ進めていく形で3年度からスタートしていきますけれども、ここで以前も協議していただきましたが、私としては学校が地域の拠点なんだということで、そういった建替えを進めていきたいと思っております。色々な形の中で学校の教育現場というのがもちろん一番優先されるべきだと思っております。

が可能な限り地域のコミュニティスペースを複合化した形で統合して、効率化と合理化を図ればコスト的にも将来的な負担が軽減されますし、何より私の考えはやはり地域の拠点が学校である。子ども達の教育も町内会の活動も地域のお祭りも、いざ災害があった時に逃げる場所も、皆で向こう三軒両隣の意識を高めていける場所も、シンボルも、学校なんだというふうに出ればなどというのが強い思いでございます。そういったことを含めて令和3年度から建替えに向けて準備を進めていきたいと思っています。以上、担当事務局から説明がありましたが、教育委員の皆様方からご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

教育委員 中嶋 剛

学校施設の方が令和5年度から、福重小学校からだったと思いますが、そういう形でやっていく訳ですけども、結局この前の市長さんとの懇談会でも出ましたけれども、これを機会に校区の見直しと言うのがですね、非常に竹松地区を中心に向こう側が非常に入り組んでいて、あるいはこちらの方も当然不都合な面もかなり出てきている。そういうことを考えると、校舎建替えと同時にこういうものをきちんと考えていくという姿勢を是非、計画の中にも入れていただきたいと、そういうふうに私は思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。当然、校区の変更は、町内会が絡んだり、学区の変更など色々あると思います。デリケートな問題もあると思いますがやはり中嶋委員が言われるように、このチャンスにやらないとなかなか出来ないの、そこをしっかりと意識をして、まず最初が福重ですから、北部に係るところなので考えたいと、もう一件言えるのが、これは簡単ではないと思うのですが、福重が最初であるということで、富の原と竹松がマンモスしているからこそ、思いっきり特色を持った特にGIGAスクールもそうですけれども、思いっきり振り切ったような学校運営を福重がソフト

として出来れば、松原や黒木がやっているような特別転入学を福重にも設けて、特色があるところだからこそ人が寄ってくるというふうに出れば、また数字が改善していくこともないかなと期待をされていて、そういったことも考えていければなど私としては思っているところです。それがきっちり成功すれば、そのソフトというか仕組みを市内に広げていくことに繋がるのではないかと、そんなことを是非、こういう機会がまずないので、限られた時間ではありますが一生懸命、三岳課長が先頭になって進めていっていただければと思っております。皆様ないでしょうか。何でも忌憚のないご意見を、GIGAスクールは後ほどなので、その時にでもご意見いただければと思っております。

それでは今日は協議事項が多いのもうひとつ次に進めさせていただきます。次に成人式の開催についてでございます。現在の状況を事務局から説明をお願いいたします。

社会教育課長 喜々津 武利

成人式の開催についてご説明をさせていただきます。説明に入ります前に資料の訂正がございます。資料1-1、延期の経緯の中で12月24日の欄になります。下の欄で「佐世保市が延期決定、島原市、五島市、松浦市などが中止決定」となっておりますが、「島原市は延期を決定」いたしております。次が資料1-2になります。こちらの上から3段目、「島原市が中止決定」となっておりますが、こちらも「延期」ということでございます。お詫びして訂正いたします。それでは説明に入らせていただきます。

資料1-1をお願いいたします。まず延期の経緯について掻い摘んで説明をさせていただきます。まず12月22日、12月の定例教育委員会におきまして、一般観覧者の入場を禁止した上での実施ということを定例教育委員会において教育委員の皆様にご報告させていただいたところでございます。しかし翌23日に大村市で感染者が1名発生をし、また長崎県における新型コロナウイルスの感染段

階ステージが「3」へ移行するということが県知事からお伝えされたところでございます。これを受けまして翌 24 日に開催についての検討を教育委員会内で行い市長と協議した結果、延期という判断をさせていただいております。翌 25 日に対象者への延期の通知を発送し 28 日に成人式企画運営委員会を急遽開催をし、延期についての説明、開催についてのアンケートを実施したところでございます。周知につきましては、ハガキの他、市のホームページ、公式 SNS、防災ラジオ、FM おおむらで周知を図ったところでございます。

次のページをお願いいたします。今後につきましては、成人式の開催について会場となる施設の利用状況を考慮した上で開催に向けて検討をしているところでございます。開催の方法につきましては新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した上での実施ということで行っていくことにしています。説明は以上でございます。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。前回の教育委員の皆様からのご意見をいただいて、最終的に延期という判断をいたしました。これについては本当に適切な判断だったと思いましたが、ご助言をいただきありがとうございます。本当に、やりたい、やりたい、やりたいと思っていたのですが、皆様からのご意見で延期という決定で、本当に正しかったというふうに思っております。そういった中で今後なのですが、結論として私としては、主催者として、5 月の連休で開催を是非やらせていただきたいと思っております。何も考えずにやるということではなくて、今の全国の状況、長崎県の感染状況の経緯を踏まえ、ワクチン接種が始まるということを考え、そして成人者がたくさん集える時期であること、女性が振袖を着れるような季節であること、前回、企画委員会の当該の成人者の皆さんからいただいたご意見等々踏まえて総合的に考えた時に、5 月の連休の開催が出来ればというふうに思っております。出来る形に内容と、施

設のあり方、感染防止対策を徹底した上で工夫をしてなんとか開催が出来ればなど思っているのが結論として今思っております。とは言っても心配というご意見もあろうかと思いますが、お手元の資料の 1、2、3、4 とありますが、特に資料 1-3 とか 1-4 で開催の区分をしてやった自治体がございます。結果としてテレビで報道をされていた、いわゆる都市部の成人式、東京 23 区とか、横浜、福岡、大阪とかある程度的人数が成人式の開催をしても、これを原因にしての感染拡大、クラスターの発生と言うのはその後、我々が調べている範囲では確認が出来ておりませんし、報道をされておられません。そういった発生はほぼなかったというふうに考えております。そういった中であれだけ広いシーハットのアリーナの施設を有しているということと対象の成人者が千人弱ということ、そういった事を含めて総合的に考えた時に時期も 5 月ということで集まれるということで、是非考えて開催出来ないかなど。場合によっては、もしまた 4 月、5 月に感染が拡大するということがあったとしても、シーハットの裏の第 5 駐車場など、そういった屋外も活用して開催が出来ないかなど思っているところです。シーハットの空き状況を考えた時に、5 月 3 日、4 日、5 日を仮に押さえています。そういった時にはいつになりますか。

社会教育課長 喜々津 武利

実施可能なところは 4 日、5 日になります。前日の準備がありますので。

大村市長 園田 裕史

4 日か 5 日ということですね。こどもの日が 5 日ですよ。そういったことになって参ります。でもこれはあくまでも私の考えなので皆様から忌憚のないご意見をください。とんでもないという話も含めて、ただもし 5 月に開催出来るということになれば、早く案内を出してあげて早く喜んで欲しいし、飛行機も取って欲しいし、準備もして欲しいなど思っているのが正直なところです。出来ればご意見をいただいて決定まで出来ればなど

思っております。皆さんいかがでしょうか。

教育委員 佐古 順子

今回、延期にした時には師走に年末年始に感染が拡大しましたので地域の人の命を守る、高齢者の方の命を守る、家族の命を守るということで成人式が延期になったと理解しております。成人の皆さまが、成人式が縮小されたという思いでなくて、変化の第一歩だ、進化した新しい時代の第一歩の年だったねと思える立派な成人式になって欲しいと願っています。最後まで応援し、一生懸命に皆で知恵を出し合ってよい方向に進んでいけたらなあと思っています。先日、定期的なPCR検査を実施することを、「攻めの実施」という言葉が使われていた記事を目にしました。県外の移動が避けられない事業者の方が社員に、移動しない社員を含めて社員全員に、毎月数回PCR検査を実施する、家族も定期的に実施し、検査後に携帯電話に送信されるPCR検査の陰性の通知を掲示することによって、顧客の皆さまや地域の皆さまにも安心していただき、理解していただくという記事でした。莫大な費用がかかりますが「攻めの実施でコロナ禍を乗り切ろう」と力強い意気込みでした。前向きに努力なされている事例でした。長崎市も、専決処分にて予算を確保し、高齢者施設の職員に定期的なPCR検査を実施するという記事を見ました。何か新しいこと、攻め手段が他にないのか、専門家のご意見をいただきたいです。検査方法には、唾液検査、家族皆で受けるプール方式、長崎大学が開発した抗原キットなどいろいろあると聞いています。それらを利用して、安心して遠方から帰省する成人者を迎えることができればいいなあと思います。迎える市民の為に、終了後に戻った先の会社や大学や友人の為に、安心できる何かがあればと思います。キットを使うことは、自分たちは意識して帰省しなければならぬと思っただけの1つの案かもしれません。今後、もし緊急事態宣言が再発された時の成人式開催の良策は無いのでしょうか。もし緊急事態宣

言が再発されても実施できるような準備もしていただきたいと思います。もしもの時は、不要不急の外出や移動の自粛、シーハット大村の収容率なども制約が出てくると思われれます。他県在住の成人者はオンライン参加していただく事態も起こるかもしれません。緊急事態宣言が再発されても開催できる新たな時代の開催とはどのようなものか、どのような準備をしたらよいのかもよろしく願います。開催当日まで実行委員会皆様と他県の成人者皆様が何度も何度もリモートで密にお会いしていただき、密な絆をさらに密に深めていただき、そしてディスタンシングな当日を迎えて欲しいと願っています。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。皆様からないでしょうか。

教育委員 中嶋 剛

私もせっかく延期をしたのですから、是非して欲しいと思いますね。ただ問題はステージがいくらかで、3なら3で4になったら中止とかいうのが多分出てくるでしょうけれども、何らかの形であげたほうが良いと思います。今、市長さんの話を聞いていると、5月4日か5日でやって、それでも出来ない場合は別の例えば秋なら秋にするのか、そういう案はもう考えていない、ということ考えていいですね。

大村市長 園田 裕史

私としては成人者当人たちのアンケートを読ませていただきました中で、夏は暑い、秋も県外在住者等が皆で集まらない、冬に下の学年とで2学年を2日続けて行うのは違うということだったので、それらを勘案すると5月開催が一番いいのかなど。先ほど佐古委員からもありましたけれども、その時の状況下でやれる形で開催したい。再延期というのは基本ないとの方です。

教育委員 中嶋 剛

わかりました。

大村市長 園田 裕史

皆さん、何でも結構ですので何かありませんでしょうか。

教育委員 渡邊 敬

先ほどのハイブリッドというか、今、ZOOMを使って会議が行われますが、そういうのを使って少し何か出来るのかなと思いますね。今感染がステージ3で、進展したらまたどこかで出来ないでしょうし、それは考えておく必要があると思いますね。ワンチャンスで何とか出来るようにと思っています。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。

教育委員 前田 愛

前回の会議の時では、連休も厳しいのではないかということでしたが、このところ感染者が少なくなってきているので今だったら出来るのになと、今話を聞いていて思いました。4日か5日ということですが、5日だと連休最終日となるので、4日が良いのかなと思います。

大村市長 園田 裕史

そうですね。こどもの日に成人式というのもですね。

教育委員 船橋 修一

教育委員として初めての発言になりますが、私も5月の開催には賛成です。やはり成人式はやってあげたいし、夏場の成人式はありえないだろうと思います。先ほど佐古委員からもありましたけれども、もしやるのであれば華やかな成人式を大村市から新成人にということで、やはりハイブリッドは非常に可能性があると思うんですね。私事なのですが、実は佐賀県の有田町で有田朝飯会といって、波佐見朝飯会に倣ってやっており、6年ぐらいになるのですが、遠藤先生にも波佐見町にも来てもらって、市長にも出ていただいたのですが、当然ながらこれらがやれなくなって一回お休みをした後に去年の12月から初めてZOOMを使ったハイブリットの朝飯会を開始しました。今回ハイブリッドとしては3回目なんですけど、その

3回目のハイブリッド会議で松尾有田町長はリアルに参加されて、一瀬波佐見町長はハイブリッドで参加されて、東京のいくつかの市の朝飯会の方々もハイブリッドで参加され、ニューヨークの木下(きもと)さんという方も参加されました。この方は長崎の時津町出身で青雲学園を出られていて、有田町の金照堂の金子さんという方が同級生で、アメリカ人の奥様がニューヨークでビジネスをされており有田の香蘭社さんとも取引があるということで、その方がZOOMで基調講演してくださいまして、リアルで私が基調講演し、ブラジルからもアーティストが参加されて、たった3か月でこの有田だけのローカルな会議がたった3か月の3回目の会議で世界中から参加されたということを目の当たりにしていて、参加されていた松尾町長もびっくりされていました。ということで今回5月にやるのであれば、大村の子は参加できるかもしれないけれど、東京の方などは物理的に来れないかもしれないので、参加できない子も参加できるようにし、大村出身の先輩の方々迎いをオンラインでハイブリッドで呼んで、大画面でエールを送ってもらうこともできる、そういうことを含めて、オンラインも活用することで、これまでとは違った成人式ができる可能性があるのではないかなと思います。参加される方にとっても非常に意味のある、佐古委員が仰った新しい時代の第一歩の成人式ということを大村市から発信できるのではないかなと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。皆さんから非常に心強い激励をいただいたものと思っています。しっかりとご意見を踏まえて5月になんとか開催できればと思っています。先ほど前田委員からありましたように、確かに5月4日、5日であれば4日が一番来たり帰ったりするには良いのかなと思いますので、4日という視点で考えたいと、やり方についてはその時点でのステージ等々があると思いますので、屋内もしくは状況によっては屋外、

その中で、ハイブリッドで色々な方法を考えて開催をするということを練り上げていきたいと思っております。練り上げるにおいては、3月の1か月間を通して皆さんからご意見、アイデアをいただきながら作り上げていくことにしたいのですが、まずもってもし宜しければこの場で5月4日で開催する方向ということで、アリーナもしくは状況によっては屋外で、どこまで書くか言うかは別として議会であったり報道機関であったりには是非、早めにお知らせをしたいなと思っております。というのが、早く成人の子達に届くようにということと、案内が早く送られるような作業をして交通費とか会社との話とか、色々発生もしてくると思うので、そういう段取りを出来れば踏みたいなと思っております。宜しいでしょうか。ありがとうございます。では、そういう形で進めて参りたいと考えておりますので、近々に報道等、また今日は全協で午前中に言っておりますので、後ほど議会にご報告をして対処していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。ありがとうございます。

それでは続きまして協議事項3、「大村市のGIGAスクールを活かした教育について」でございます。事務局から説明をお願いいたします。

学校教育課長 橋口 智秀

失礼いたします。せっかくですので実際に本年度整備されましたタブレットPCの実物をご覧いただきながら説明をさせていただきたいと思っております。

それではスライドを使いながら説明をさせていただきます。お手元にペーパーのスライド資料、それから実際のタブレットパソコンでのスライド、そして大きく映し出しましたスライドの三つの資料でいずれも中身は同じものがございます。まず、GIGAスクール構想の大村市における実現状況及び今後の展望ということで話を進めさせていただきます。ご周知のとおり文部科学省は1人1台の端末は令和の学びの「スタンダード」としてG

I G Aスクール構想が実現する環境整備を令和2年度中に行われるように政策を前倒ししてきたところです。この構想の目的というのが、映し出しておりますリーフレットの中に記載されております。一つ目は1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、後世に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。二つ目はこれまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す、という構想でございます。スライドには1人1台端末の環境が整うことで、可能となることを載せています。授業がどういうふうな形に変わるかということが示されております。その中でも今すぐにも実現したい姿ということで、いくつかご紹介させていただきます。まず一つ目が教師・児童生徒の端末の画面や考えを可視化・共有化できるようにすること。まさに私の手元の画面で、それぞれ委員の皆様の手元に共有して映し出す、そういった事が実現できるのかなと思います。それから二つ目に、児童生徒が今まで何か調べる時はパソコン室にいて調べていたところですが、それが各教室で、しかも自分の手元で検索をして色々調べ学習ができるようになること。三つ目に一つのファイルに今まで皆で書き込むことが出来、対話的、協働的な活動が進んで、しかもその書き込まれたファイルは自動的に保存されていつでも引き出して見ることが出来るという状況にすることです。例えば、お手元のパソコンでそれぞれの委員の方が入力していただければ、それが画面に一斉に同時進行で書き込みがされる、そういう使い方が出来るようになります。それから今後の見通しとしましては、オンライン授業で学びの保障が出来るようにする。これは、今後臨時休校等行われるかもしれません。そういった時に各家庭でも授業を受ける学びの保障が可能になるとい

うこととございます。現在大村市では、グーグル社の「G suite for education」というシステムを導入しております。これが大変有効なシステムということになります。「G suite」を手軽に使用できる環境のためにもパソコン端末の考え方を改めてきたところでございます。これまでのパソコンは画面の上の方にもございますけれども、一つのパソコンに色々なソフトをインストールしてパソコン単体で活用をして個人の学習がパソコンの中で完結する学習でございました。しかし今度のGIGAスクール構想ではシンプルで安価な端末を使用しまして高速大容量の通信ネットワークを活用してクラウド上で管理されているデータにアクセスして能動的に学習、学びを進めることになっております。

これまでの実現状況について、簡単にご説明いたします。表の方にまとめていますが、まず一段目の端末の配置につきましては、1月にタブレット端末を各学校に届けており、教師用端末はすでに各学校で使用に慣れるために研修を含め活用していただいています。子ども用につきましては、2月後半から3月の頭までには学校に設置して納品が完了ということになります。

次に2段目の教育研修でございますが、現在基本的な使い方を習得する研修を各学校、あるいは市としてやっていくことになっております。授業での活用についても検討し、令和3年度からのスムーズな使用開始に向けて現在行っております。子ども達へは利用の際のルール、使い方の指導について指導の準備を行っております。また、個人情報保護審査会というのもございまして、そこによりますと段階的に導入していくということが良いのではないかとご助言をいただいております。今のところ中学生は2月の中旬から、小学校3年生以上は3月上旬から使用を開始し、小学校1年生、2年生に関しては来年度4月になってから少しずつ使用をするというスケジュールで進めているところとございます。

次のスライドは職員の研修についての様子です。1月2月におきまして、グーグル社の専門家に来ていただきまして、キックスタートプログラムというプログラム研修があるのですが、それを元に各学校から1回あたり約40名参加し6時間研修をするということで、あと4回あります。市内の約160名の教員が参加をし、それぞれの学校に持ち帰りまして研修成果を各学校で紹介し校内での伝達をお願いしているところとございます。子ども達が利用するにあたって、必要な初期の活動ということで市の方でスタートプログラムという位置づけをして各学校に示しをしているところとございます。各学校で子ども達がスムーズに活用できるように徐々に慣らしながら使用の頻度を高めていきたいという考えでございます。

この後の令和3年度以降の見通しですが、あくまで予定の段階でございます。4月から10月までを使用に慣れる期間として本格的に使用を開始してまいります。6月には県教育委員会主催の一斉の研修で教職員の研修が予定されています。7月以降の夏休みには出来れば一度家庭に持ち帰ってお家の人とも実際に使ってみる、宿題や簡単なアンケートに答えるといった簡単などころからまずは家庭での活用、利用体験を進めていきたいと考えております。

最後になりますが、本年度から第三期大村市教育振興基本計画の実施になっておりますが、そこに掲げております人間像が二つ示されております。それぞれの人間像に必要な資質、能力として、情報を適切に活用する力・態度や創造性、そして地域や社会・世界とつながる力や協働性というものが挙げられます。私共の今回の環境整備というのは、人間像の実現のためのあくまでもひとつの手段であるということを確認しているところとございます。次のスライドは文部科学省が示した1人1台端末を活かした学びのイメージです。ステップ1からステップ3まで示してございますが、ステップ1ではまず、学びの自立化・個別最適化・

個性化・協働化ということになっております。1人1台端末の活用をしながら情報を活用して学ぶ能力や自ら学ぶ能力、協働して学ぶ能力、こういった能力を向上させ、教科の力を身につけさせるという段階です。ステップ2のところは、この環境を有効に活用して教科の学びを深める段階です。1人1台の端末によって教科の学びが充実し、深くなって参ります。そして教師に教えてもらうことを超えて新たな疑問や問題意識が生まれて、自ら調べ学習等で探究、解決に取り組む原動力になって参ります。ステップ3は、教科や学校の枠を超えて諸問題の解決に取り組んでいく段階でございます。先ほど船橋委員から、ある会を行っている中で、地元の枠を超えた離れた地域の方あるいは海外の方の参加もあり、ハイブリッドな参加者に驚いたというお話もありましたが、同じようなことが学校でも起こってくるのではないかなど考えています。授業のハイブリッド化、グローバル化で学びの対象を学校という閉ざされた人的資質だけではなくて、学校を超えた学びの対象、人との広がり在今后ますますあるのではないかと感じているところです。以上で説明を終わらせていただきます。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。これは教育委員さんには初めてですよね、タブレットが配布されて協議になるというのが。このあとの教育委員会でもGIGAスクールのご披露されるんですよね。

学校教育課長 橋口 智秀

また、これを使いながら実際の授業で使うようなことを体験していただこうと思っています。

大村市長 園田 裕史

時間は限られていますので、特にその後の教育委員会の中でも正直、ピンバシ皆さんからご意見を賜りたいと思っています。色々なことを是非皆さんからご助言いただいて良いものにしたいと思っています。モノだけ揃って魂入れずということでは駄目ですし、しっかりそこを皆さんから厳

しく忌憚のないご意見をいただきたいと思います。先ほど、橋口課長からスケジュールが示されたとおり、2月の中旬から中学校では試験運用していく感じなんですかね。まだ令和3年度の本格運用まで時間がありますので、本当に教育委員の皆さんや民間の方々からの色々な発想、経済界の方々からの考え方も含めて、是非良いものになるように意見をいただきたいと思っています。時間はまだまだあると思います。子ども達が有益な学びに繋がるために引き続き意見をいただきたいと思っています。

私からは三つGIGAスクール構想について思っています。一つは積極的に是非使って欲しいと思います。実は、私は恥ずかしながらPTA会長をしていた時に今ではあり得ないのですが、登録の一斉メールがあるのですが、あれを入れるか入れないかというのをPTAで7、8年前に議論をしていて、個人情報はどうのこうのだからやめていた方が良いんじゃないのとか言って止めていて、PTA会長の時は電話で連絡網を回していたんですね。今考えるとあり得ないんですが。ところが今は一斉メールに登録していただいて一瞬で連絡がいく、先生の負担も軽減する、災害の時も朝に連絡できる、コロナのことも連絡通知ができる、情報の伝達、運動会の準備なども一斉に保護者に連絡がいく、非常によく使っていたらと思うんですね。先生も楽、保護者も楽、子どももハッピー、良いことばかりだと思うんですね。情報が漏洩しないようにそこはきっちりやらないといけません。積極的に使って先生の負担を減らすということよりよいコミュニケーションツールを使うということもあると思いますので、これもそういうふうに使って欲しいなというのがまず一つです。

二つ目は是非、学校の先生方に「これじゃないと出来んとさ」ということをやって欲しいです。実は私はITとかSNSとか使ってそうで、得意そうで好きそうでというふうに使われがちなので

すが、教育については自分の子どもにも言うのですが、タブレットがあれば勉強するけれども、紙だったらやる気が起こらないとかいうと、なんば言いよつとかと思ひ、紙であったとしても、これでもちゃんとしてよと子どもにも伝えるのですが、だったら逆手にとって、ITとかSNSを使わなきゃできない、それらを使うからこそ学びが深まるとか、そういうことを是非やって欲しいなと、構築して欲しいなと思ひています。

三つ目ですが、学校の現場の先生方については是非教育委員会からもある程度の自由度、これを使って好きに教育コンテンツを授業のために使わねとか、規制をある程度緩和するような感じで、各教科の先生方に使わせて欲しいなと思ひます。と言うのが、掘り起こすと私が中学校の時に郡中数学を習った山口先生、てっちゃんと呼んでいたのですが、数学の授業が分かりやすかったんですね。それはなぜかと言うと、分度器を使ったり、自分で段ボールや模造紙で作ってきたものをマグネットで貼ってくれて、それで証明とかの授業を教えてくれていて、すごく数学が分かりやすかったし、面白かったんです。逆に違う先生だったら絶対にそういうことはなかったし、授業も身に入らないし、視覚で捉えられたからやはりよかったのだと思うんですね。そういう工夫を、これを使う上で、思い切つてある程度これはしたら駄目、これは良いとか、駄目なものは駄目だろうけれども、先生たちが自由度を持った形にカスタムして使えるように規制を緩和して欲しいなと思ひます。そうなると、先ほど船橋委員からもあつたように、もしかしたら冒頭で出てきた辻君がベルリンからオンラインで駆けつけてくれて、「こんな校歌を歌ってくれた辻君です」と言つて、どんな気持ちで中学校を過ごしていたのかの話がベルリンから届けてくれる。例えば佐古委員のお嬢さんが今活躍されていますけれども、どんな思いで取組んでいたのかを東京からでも関西からでも届けられる。本当に素晴らしいと思うんですね。そんなふうに

使うと国内からも国外からも色々な教育コンテンツになると思ひますのでそれを是非、自由に先生方が使えるようにして欲しいなと思ひます。この後もあります、皆さんから何かありませんか。教育委員会として、学校現場としてこうしていくべきだから市としてはこうやれよ、ここにお金を使わないといけないじゃないかなどを含めて、是非皆さんから限られた時間ではありますが、何かないでしょうか。

教育委員 船橋 修一

教育配信を増やすというのは良いなと思ひます。私事ですが長年九州教具は10年前から世界に先進国に視察に行つていまして、やはり今まで一番衝撃を受けたのがGIGAスクール、教育ICT発祥の地と言われているエストニアに行つた時が一番驚きました。エストニアではすべて1人1台、完全に電子化されていまして。それは旧ソ連時代にソ連から侵略され、ナチスからも侵略され、ソ連時代にロシア人の四割が国民になった。そして、ソ連から侵略された時に国民の大部分がアメリカに逃げていったという時代背景が彼らをそういうふうに導いたのですが、ある公立小学校に行つた際、女性の校長先生にプログラミング教育をするために教育のICT化をされたんですかと尋ねると、いやプログラミング教育は手段ですとの答えだったんですね。実はエストニアという国は人口130万人で長崎県と同じです。すでにその時はスカイプという世界企業が育つていましたし、その財貨を使って電子化をしていたんですが、子ども達に自分の頭で考えさせるという教育をさせるためにロジカルシンキングをさせるためにプログラム教育をやっているとはっきりと言われました。今、ちょっと心配しているのが我が国の教育ICTは、手段が目的化しているくらいがあるなと思つて心配しています。それと今は機材が揃つてスタートラインに立っているだけで、実際には人が行うものですから、教育は先進、つまり先に行つていところが遥かに使い方が優れています。長

埼玉県は皆さんご存じのとおり、日本の中でも遅れていますし、日本は世界 200 カ国の中で 130 位台です。後にどんな国があるのかというぐらい遅れています。我々が視察に行ったところの中では、日本より遥かに進んでいるところではインドネシア、今やキューバも我々より進んでいます。そういう段階であるということを認識しないとイケないし、長崎県でどこが一番進んでいるかをご存じですか、川棚町です。長崎市は 1700 自治体の中で 300 番台、佐世保市が 200 番台、川棚町は 30 番台でした。川棚町で実際、教育 I C T を数年前から使い倒していますが、体育の授業でも使っています。体育の授業での使い方は、私が視察した時は先生の間で始められたんですが、跳び箱の授業で二人ペアリングにして、動画で撮る。そして、飛べない子には動画でもう一人の子が指導する、これでかなりの跳び箱が飛べない子が飛べるようになったと実証があがっています。川棚町に行ってみたらたぶん思われると思います。是非、隣町ですから進んでいるところのノウハウをどんどん学んでいただきたいなと思います。ちなみに、もう一つ言うと佐賀県も進んでいます。例えば一山超えた有田町でも進んでいますし、プライドを捨てて先進地にどんどん見に行っていたいただきたいと思います。ハードウェア的に言うと目に見えて起きるトラブルが、通信トラブルは必ず起きると思います。クラウドと言っていますが、そんなに強力な通信網はありませんので、実際にこれは川棚町でもどこでも起きていますけれども、通信トラブルは必ず起きるということはあると思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。是非、皆で川棚町と有田町に行きたいと思います。他にはないですか。

教育委員 中嶋 剛

12 月 23 日に、市町村教育委員会のオンライン協議会というのがありました。私も初めてオンラインで全国の教育委員の皆さんと協議をした訳ですけれども、教育委員会の事務局がちゃんと準備

をしてくれましたので、私はただそこに座って話をすればよかったので非常に簡単でしたけれども、あの中の方科会で「教育の情報化」という分科会に参加をした訳ですが、千葉県香取市の教育委員で、香取市でパソコン教室の先生をしている女性の方なのですが、その方の話しの中で衝撃を受けました。日本の教育はどうしているのでしょうか。いわゆる自分のところに来る子ども達、小・中学生がパソコンの立上げ方も知らない、保存の仕方も知らない、データをどのようにするのかももちろん全然分からないと、そういう子ども達が非常に多いと。だから今、G I G A スクール、G I G A スクールと言われているけれども、まずはそういう基本的な操作をしっかりと教え込む必要があります、ということを抑っていたんです。なるほどと思いました。私はこういうふうにして教育委員会が全学校の子ども達にタブレットを渡しました。じゃあ、すぐに成果を出せというふうに拙速にそういう効果を求めるということは、私は間違いだと思えます。まずはきちっと基本操作を徹底的に教える、これが一番だろうと思います。これは橋口課長からタイムスケジュールの説明がありましたが、10 月までは一応使用に慣れる期間ということで書いてありました。ここの部分で先生も子ども達も、基本をちゃんと指導しなければならないと思います。160 人の先生方がちょっと研修を受けたと、先ほど報告がありましたけれども、これが全教員に果たしていくのかどうか、私はこれが G I G A スクールの成功をうまく決める第一段階だと思います。全先生方にまず徹底的に指導を行うということが第一でしょうね。それともうひとつこの中で私が考えて欲しいのが、結局このタブレット等を使った I C T を使う、授業の中で使うことに囚われ過ぎて、肝心の今まで日本の教育で培ってきた一斉授業、グループ授業、色々あるこういうものを疎かにしてしまえば、これは本末転倒であると。いわゆる G I G A スクールでタブレットを使うのは 1 単位時間の約 2 割と言

われています。あとの8割は結局きちっと今まで通りの授業を徹底的にやらなければならない。その部分を先生方にもしっかり言うておく必要があるなど、何でもかんでも先端、先端ということではいったら大きな間違いを犯すことになるのではないかと私自身は思っております。だからそういうところを私はキーワードとして「焦らず、じっくりと正確に」これをキーワードにして先生方にしっかり指導をしてくださいと、そういうふうに思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。大変熱のこもった、今でも教壇に立とうではないかというような中嶋委員の想いをお聞かせいただきありがとうございます。皆さんから他にないでしょうか。今、中嶋委員や船橋委員からのお話の中にもありましたけれども今後どう活用してどう使っていくかがとても大事だと思いますし、正直な話ある意味、実際に現場にいらっしゃった中嶋委員のお言葉であったり、教育委員の皆さんそれぞれの立場の中で、これをこういうふうに使ったらいいんじゃないかとか、本当にご意見やアイデア、忌憚のない形で言っていただきたいと思います。特に新たにご就任いただいた船橋委員においては、先ほど全国とか世界とか県内の状況など、実は個人的にも船橋委員とは市政全般的なことを以前から意見交換させていただいた時も、GIGAスクールとか、いわゆるオンライン授業と学習について、長崎県の状況というのを非常に憂いておられて、厳しくご意見をいただいております。そんな中で川棚の事例も実は全国の雑誌にも取上げられて、そこにも船橋委員は大きく関わっていらっしゃいますし、有田町の事例だったり、色々なところを取入れて大村オリジナルの良いものを、しかもそれが目的にならずしっかり実態に則して、子ども達のためになっているような内容を今から作りあげていきたいと思っておりますので、是非幅広く皆さんからご意見をいただきたいと思っております。今日は時間が

迫ってはいるのですが、この後の教育委員会でもすし、今後も是非色々ご意見をいただきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

2月末から中学校ですので、私の次男がこれでゲームをしないようにしっかり厳しくチェックしておきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

それでは最後の協議事項ですが、時間も無いので手短かにですが、給付型奨学金の見直しについて説明をお願いいたします。

教育総務課長 三岳 和裕

それでは給付型奨学金について説明させていただきます。資料は3-1、3-2をご覧くださいと思います。本市における給付型奨学金については、学業成績が特に優秀であるにもかかわらず、経済的理由により就学が困難な者に対し、奨学金を給付することにより、有用な人材を育成することを目的として、平成24年度に創設をした制度でございます。応募資格は2、に記載のとおりで特に(2)直近の大学入学共通テストの結果、国語、英語、数学の3教科の合計得点が90%以上、という高い設定にしています。また、収入の要件としては、収入の目安として、点線で囲ったところに記載をしておりますが、これは生活保護基準の1.5倍以下という設定になっています。給付額は月額5万円で大学の正規の修了期間ということで、この期間に給付を行うものでございます。これまでの給付実績としましては、制度創設時の平成24年度に1名、平成30年度に1名採用しまして、9年間で2名という実績状況でございます。この2名という少ない状況で、市議会の中においても要件の緩和や見直し案をいただいております。その市議会の提案の中で資料3-2の裏面の7番に山口県萩市「グローバル50奨学金」というのがありますけれども、こういったものやったらどうかという提案がありましたので、これはいわゆる世界の大学ランキング50位以内に入る大学に対する奨学金というようなことで、こういったものをしてはどうかということです。この2番、4番、5番につい

ては、寄付を財源として基金等を創設して、それを活用した給付金というものです。本市としても教育委員会としても学業だけではなくて、スポーツ、文化など一芸に秀でた子ども達に対する助成が出来ないかということで話をしておりますが、なかなか対象や要件設定で難しい面があるということで、現段階ではまだこういったものを整理できているという状況ではありません。以上です。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。県内では大村市だけが給付型奨学金というのがありまして、非常に画期的で良い制度です。ところが、これは単純に言うところ東大か京大に受かるぐらいのセンターの結果でないと適用できません。経済的な給付要件というのは色々と考え方があるので、ここを緩和するのもしないのか、緩和すればそれなりの経済力があるご家庭も支援するというのもあるので、そこをどう考えるのかというようなこともあるかと思えます。その視点がまずひとつです。対象とするご家庭の経済状況を緩和するのもしないのか。あとは東大、京大ぐらいのレベルまで高く設定をしておくのもしないのか。萩市の事例がありましたけれども、東大で世界のランキングが50何位ということらしいですから、萩市は相当レベルが高いのでしょうが。あともうひとつは、給付額も月額5万ということで、年間60万、それはまたご意見をいただいて良いのですが、一番私が問題にしているのは、こんな良い制度は県内で大村市だけなのに、これまで採用されているのが一人なんですね。これじゃちょっとどうかなと思っていて、せっかく毎年予算化しているのに、使えるものでなければ駄目だと、しかし規制を変えて緩和しすぎてもハードルを下げすぎてもどうかなというのがあります。私の一番の狙いは、これは私と教育長の共通理念なのですが、一芸に秀でているというのがテーマで大村の教育を底上げしたいと思っている中で、確かに勉強も大事けれども、冒頭に言いましたように、文化やスポーツで頑張っ

ているこういった子たちも是非応援したい、そこにも活用できるようにしたいということです。頭を悩ませてきました。しかし、この文化やスポーツがどういう基準でというのが、なかなか難しく、インターハイにいったとか、全国で1位になったとか、そういうものを基準にするのか、そしたらだいたい大学は特待でいくらしいので授業料がかからないとかなってどうなんだということがあったりします。そこで私が色々調べたところ、大好きなスラムダンクというバスケの漫画の著者である井上雄彦先生がスラムダンク奨学金というものを自身でやられているのですが、これは海外にバスケで留学する子たちに金を出しているんですね、井上雄彦さんがお金を出しています。立花さん達がもらったのかどうか分かりませんが、そんな制度です。だからひとつ海外にアスリートで、文化でチャレンジする子たちを対象とするのはどうか、どういう基準で線を引くのかなど、課題は多いですが、いずれにしてもこれをもっと良い形にしたいと思っています。今日はもう時間がないので、これはお持ち帰りいただいて、皆さんの周囲のご意見とか、特に佐古委員など娘さんとかに聞いていただいて、どういう形であれば一番良いのかなというのをまた次回にでもご意見をいただいて、早くこれをまとめて早く固めて、制度を変えて出来るだけ次年度の子ども達に活用してもらえるように制度を伝えたいなと思っています。

教育委員 船橋 修一

現状だと、留学では使えないのですか。

大村市長 園田 裕史

今の制度だと留学は使えないです。

教育委員 船橋 修一

海外留学すると学費も高いし、私大に入ろうとしても500万、600万かかるんですね、アメリカの中でも経済的な問題で私大はあきらめて州立大学にいったという状況があります。これからは留学者も増えると思うので検討していただきたいで

すね。

大村市長 園田 裕史

そうですね、ありがとうございます。そういうご意見も含めて、テーマは東大、京大といった高いレベルだけで良いのか、ハードルをどうするのか、それとスポーツ、文化、芸術、この子たちをどういった形で応援できるのか。毎年、120万円予算であげているんですね。これが毎年不用となってしまっているんですよ。使われていないからこそ、せつかくならもっといい形に思っております。ここで時間が来てしまいましたので、是非皆さまにお持ち帰りいただいて、ご意見いただきたいと思っております。

今日はテーマを沢山設定しすぎて時間配分がうまくいかず申し訳ありませんでした。ただどれも非常に重要な案件でしたので無理やり四つをあげさせていただきました。次回またご意見をいただきたいと思っておりますので宿題とさせていただきます。では事務局にお返しします。

企画政策部長 渡邊 真一郎

それでは次第4「その他」に移ります。委員の皆様から何かございますでしょうか。無いようでしたら次回の総合教育会議ですが5月を予定しております。テーマおよび開催場所につきましては、後日ご連絡させていただきます。それではこれを持ちまして令和2年度第3回総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。